

第37回 クリーンセンター滋賀環境監視委員会 会議概要

1. 日時 平成30年3月1日(木) 14:15～16:30

2. 開催場所 クリーンセンター滋賀 研修室 他

3. 出席者 環境監視委員

学識経験者: 金谷委員長

住民代表: 中島(茂)委員、中島(常)委員、
東 委員、福井委員、
渡邊委員、中島(仁)委員

事業者: 深川委員

甲賀市: 酒徳委員代理、中島委員、
山下委員

公社: 岡治委員

事務局: 公益財団法人滋賀県環境事業公社

小林副理事長、河合所長、
内藤副所長、木村参事、奥野次長、
松延主幹、清水主幹



4. 議事概要

(1) あいさつ(公社 小林副理事長)

(2) 活動内容報告

- 1) 水質調査結果について.....資料1
- 2) 硫化水素自主測定結果について.....資料2
- 3) 搬入実績について.....資料3
- 4) 第4期施設整備工事と埋立の進捗について.....資料4
- 5) 放射線の自主測定結果について.....資料5

【主な意見および質疑】

注(◇: 意見、質問 ⇒: 説明、回答)

1) 水質検査結果について

◇平成26年に地下水M2にて鉛が検出され、その後は出ていないようだが、何か対策をされてのことか。

⇒特に対策を取っていないが、地下水の採取時に泥をまき込んだことにより一時的に検出したと思われるので、その後は注意して採取している。

◇地下水の塩化物イオン濃度だが、変化の傾向を見たいので平成25年以前のデータも把握しておきたい。併せて、M2からヒ素が検出されているのだが、処分場の影響ではないと思われるが、次回委員会には開業時からのデータを提示してほしい。

⇒最下流の地下水M2ではヒ素が検出されているが、廃棄物の影響が出やすいM3地点では検出がないことから、M2では自然由来のものと解釈している。次回には開業時からの動きが判るよう資料を用意する。

◇今年になって、M3地点の地下水では塩化物イオン濃度と電気伝導率に変化が大きくなっているが、これは何か原因を把握しているのか。

⇒特定には至っていないが、今年は、第3期工事において法面モルタルのハツリ等補修を行ったことで、埋立周辺域から地下水に変化を与えたかもしれないと考えている。経過を見たい。

2) 硫化水素自主測定結果について

◇硫化水素の濃度が高いところのガス抜き管での発生要因となるものはなにか。埋立てが終了したときに高い値のままであることを心配する。コントロールする方法はないのか。

⇒廃棄物に含まれる有機物と廃石膏ボードが分解される際に硫化水素が発生する。これまでの埋立て経験から推察すると、埋立後の濃度は2～3年で下がる傾向にあるが、発生したガスを吸着する毎日の処理作業は、埋立が終了した段階でもしばらくは続けないといけないと考えている。

◇クリーンセンターが、硫化水素ガス等の管理・コントロールをしていることを、住民の方に整理して説明できるよう、広報も考えて頂きたい。また、作業での安全についても、整理されたい。

⇒毎日の作業にあたっては、出勤時の周辺状況を朝礼で報告し、現場でのその後の濃度測定と脱硫剤の交換個所を決める等の手順を決めてあっている。資料の写真3となる各個所では、毎朝9～10時に濃度の計測等をおこなっている。管の開口部での濃度や温度、臭気により交換が必要かの判断をする。交換は、1個所ごとに全量交換をする必要があるので、午後に重機を使用して3～4人で行っている。

◇周辺地域に影響がないことは分かっているが、埋立てや車両運転手の作業環境としてどうなのか。また、交換判断のマニュアル化とかはされるのか。

⇒密閉空間ではないので、密閉空間での作業環境基準である10ppmを参考に対応している。脱硫剤の交換判断ですが、交換作業マニュアルで複数の要素から組み合わせたうえで決めているが、交換の判断要素には幅があるので基準を数値化するには手間取ると思う。

◇廃石膏ボードは、フレコンバッグに詰めて搬入させ、密閉したまま埋め立てるとかの方が、水に触れないので良いと思うがどうか。

⇒展開検査をして、搬入物を確認している。その後に埋め立てるが、梱包を開けずに黙視して埋めるというのはどうかと考える。方法を変えるのは難しい。

◇中間処理事業者ではどうされているのか。知らないで教えてほしい。

⇒建設業者から各処理事業所のヤードへ搬入される際に、分別されて入ってくる場合と混在したまま入ってくる場合がある。分別されている場合も更に人力や機械で廃棄物種別の区画ごとへ選り分けられる。当処分場では、持ち込まれた石膏ボードと“ばいじん”を混ぜたうえで他の廃棄物と区画を分けて埋立てをしている。

◇灰と一緒に埋立てしているのか。

⇒“ばいじん”と一緒に埋め立てることで、硫化水素が発生しやすくなる酸性には傾かない(アルカリ性側になる)ようにする工夫を行っている。論文・文献などからの検討によるものである。

◇埋め立てたところには、いつ頃、何が埋め立てられたかをメッシュで把握されている。データを集めて、ガス濃度と廃石膏ボードの埋立場所との相関を分析されたほうが良いのではないかと。完璧には判らないが、埋めたところと発生個所が異なっていたなら、分散させるという考え方も出てくるかもしれない。

⇒分散すると、ガスへの対応個所が広範囲となると考え、廃石膏ボードは左岸側に集めて埋め立てを行っている。戦略的には、廃石膏ボードの搬入量を減らす方向で働き掛けることと、もえがら、ばいじんの受入れ量を増やすよう進める考えである。ただ、廃石膏ボードは、これまでも混合廃棄物等に混じって搬入されるものも相当量あるので、メッシュでデータをとっても相関が明らかにならないのではないかと考えている。

◇そのことも含めて、遮水シート等の施設の整備は万全を期して、相当の経費をかけてきたので、硫化水素対策の埋立ての方向を出すにあたっては、きちっと評価、検討して、対応してほしい。

◇ガスを吸着、変色した脱硫剤はどのように処分されるのか。害は起こさないのか。

⇒脱硫剤は、吸着して安定した状態になっているので、土と混ぜて埋立処分をしている。害はなく、鉄粉と同じと考

えていただきたい。

3) 搬入実績について

- 意見なし -

4) 第4期施設整備工事と埋立の進捗について

◇鉛直遮水工、遮水シート等により廃棄物浸出水が処分場の外へ出ることのないよう、よろしく施工をお願いします。

◇貯留池を栗石とコンクリートがらで埋めるというが、当初からの計画か、新たなものか。

⇒当初の計画では、コンクリートがら等をここに埋めることであったが、建設リサイクルのしくみが行き渡って入ってこなくなった。このため、大栗石(φ15cm以上)を使って5m(10千㎡)埋め立てることにした。その上に廃棄物を5m埋める計画となっている。

◇地下ダムの貯留量 3,400 m³が確保できるかは、どのように確かめられるのか

⇒既知のデータや実験からのデータを得ているので、これだけ確保できると考えている。

5) その他

◇展開検査の状況と埋立不適物の持ち帰り状況について提示いただきたい。

⇒おつて資料を作成のうえ、各委員にご報告します。

(埋立地上部から現在の埋立状況を視察)

◇埋立地の残容量はどれくらいか。

⇒概ね、全体計画の半分程度です。

◇展開検査場の利用は、どの程度か。

どの程度、展開検査を行っているのか。

⇒展開検査場で、大型コンテナ車両がダンプアップすると設備や車両が破損するおそれがある。大型車両と特定品目は埋立処分場内で検査をしている。おおよその割合は、展開検査場で3割、処分場内で7割くらいの比率になる。

◇使用済みの脱硫剤は、石膏ボードと

同一個所に埋めることができないか。

⇒土と混ぜて覆土として使用している。

